

南阿蘇鉄道沿線の復興まちづくりの実態に関する研究

熊本大学 学生会員 ○竹原大旗 熊本大学 正会員 田中尚人

1. はじめに

近年の我が国では、行政サービスの弱体化による、まちづくりにおける地域の担い手不足が顕在化しており、特に中山間地域ではこの問題が深刻化している。また、ライフスタイルの多様化や少子高齢化の進展など、市民生活を取り巻く社会環境の変化に伴い、地域が抱える課題が多様化・複雑化している。特に災害からの復興時においては、それぞれの時代や地域の課題に応じた解決策を考慮しながら復興を進めることが必要とされている¹⁾。さらに、市民活動が長続きしない²⁾、まちづくり団体や組織自体の存続が危うい³⁾など、まちづくり活動における継続性の課題も多く存在する。

以上のことから、今後の我が国におけるまちづくり活動、特に復興まちづくり活動のあり方を再度見つめ直すことは必要であると考えられる。そんな中、復興まちづくり活動に着目した既往研究において、ビジョンが大切であると主張は多く存在しているが、ビジョンの視点から復興まちづくり活動実態を分析しているものは少ない。

本研究の目的は、復興まちづくりにおける活動実態をビジョンに着目して分析することである。そのために、熊本地震からの復興まちづくりが行われている地域にて、活動実態を把握し、ビジョンの視点から考察した。

2. 南阿蘇鉄道沿線の復興過程

(1) 南阿蘇鉄道の概要

南阿蘇鉄道株式会社は、国鉄高森線から転換され、昭和61年に開業された第3セクター鉄道である。出資割合は、南阿蘇村が56.5%、高森町が33.9%と、その他関係市町村10%、JA阿蘇0.05%と、2町村が9割以上を保有しており、熊本県の出資はない。代表取締役社長は、高森町長が兼務している。運行区間は、JR豊肥本線と接続している立野から高森まで17.7kmである。駅舎内にカフェや本屋等の店舗が入っている駅が全10駅中5駅存在し、それぞれが特徴的な駅で営業を行っている。

(2) 南阿蘇鉄道の被災状況

平成28年4月の熊本地震発災により、南阿蘇鉄道では橋梁、トンネル等で甚大な被害が発生し、全線不通となった。その後、平成28年7月に中松～高森間で運行を再開したが、全線復旧までには至っていない。全線復旧には約65～

70億円の費用が必要と試算されており、国による大半の費用補助のもと、2023年夏に全線復旧する予定である。

震災前まで、近年では、輸送収入は増加傾向にあった。トロッコ列車と普通列車は、右肩上がりで、インバウンドの団体利用が要因だった。しかし、震災による影響は大きく、平成28年度は運行便数、輸送人員とともに輸送収入も大幅に落ち込み、営業収支率はわずか14.5%と経営状況が大きく悪化した。現在も、震災以前より運行便数、従業員数を減らし、営業している。

(3) 南阿蘇鉄道沿線の復旧・復興過程

熊本地震発生後の南阿蘇鉄道沿線における復旧・復興過程を表-1に整理した。

表-1 南阿蘇鉄道沿線における復旧・復興過程

年	月	南鉄に関する主な出来事	南阿蘇地域に関する主な出来事
1986		南阿蘇鉄道株式会社 設立	
1987		南阿蘇鉄道株式会社 営業開始 加瀬・見崎台駅開業	
1992		南阿蘇水の生まれる里白水高原駅 開業	
1993		阿蘇下田城ふれあい温泉駅 開業	
2006		南阿蘇鉄道本社と高森駅を統合	
2007		トロッコ列車運転開始	
2012		南阿蘇白川水源駅 開業	
2016	4	熊本地震発生。全線運行不可能。 復旧義援金口座開設 被害状況現地調査	
	5	緊急通学バス運行開始 熊本県知事・県議会議長へ緊急要望 国土交通省・内閣官庁へ陳情書提出	
	6	国の被害調査費計上決定 取締役会と株主総会で全線復旧の方針確認	俵山トンネル補修工事着工
	7	高森～中松間運行再開	
		南阿蘇鉄道復活祭	
	8	南鉄復旧記念夜市	
	10	南阿蘇鉄道秋のトロッコマルシェ ホームページリニューアル。バナー広告開始 南阿蘇鉄道沿線チェックイン&クイズラリー開始 まくら木オーナー制度募集開始	
	11	ワンピース列車運行開始	
		南阿蘇鉄道復活祭-2nd STAGE-	
	12	キリン「午後の紅茶」CM放送開始	俵山トンネルルート復旧開通
2017	3	南阿蘇鉄道復活祭-3rd STAGE-	
	4	南阿蘇鉄道再生協議会 設立	
	5	南阿蘇鉄道沿線地域活性化協議会 設立	
		南阿蘇鉄道復活祭-4th STAGE-	
	6		国道57号線北川ルート着工
	8		長陽大橋ルート開通
	10	レイルフェスタ九州	
	11	上下分離策決定	
	12	国の復旧費用補助が決定 モデルとして制度化	
2018	3	全線復旧に向けた工事着工	
		南阿蘇鉄道復活祭-5th STAGE-	
	4	南阿蘇鉄道沿線地域公共交通網形成計画 公表	南阿蘇村 北登山道開通
	6	高森駅周辺再開発グランドデザイン 応募開始	
	9		
	10	高森駅周辺再開発グランドデザイン 最終審査	
		高森駅再開発キックオフWS	
	12	高森駅再開発WS 第2回	
2019	1	高森駅再開発WS 第3回	
	4		JR豊肥線2020年度内に運行再開見通し
	9		国道57号線2020年度内に復旧見通し
	10	南鉄フェスタ	俵山トンネル全線開通
2020	8		JR豊肥線全線再開

3. 復興まちづくりにおける活動実態調査

(1) 調査概要

ヒアリング調査対象者を表-2 に示した.

表-2 調査対象

日付	対象者名	役職
11/30	A氏	熊本大学教員
12/7	B氏	高森町役場職員
	C氏	地域おこし協力隊
12/11	D氏	南阿蘇村役場職員
	E氏	駅舎店舗管理人
	F氏	駅舎店舗管理人
	G氏	高森町役場職員
12/13	H氏	元熊本大学学生 元南鉄支援団体団長
12/16	I氏	駅舎店舗管理人
	J氏	駅舎店舗管理人

対象者は行政、駅舎管理人、地域おこし協力隊、アソシエーションなど、多様な主体に対して調査を行った。なお、ヒアリング調査は、オーラルヒストリーに基づいて、「南阿蘇鉄道やその周辺地域のために行ってきたことについて」「当時、ありがたい未来について考えたことはあるか」の2つの質問軸に沿いながら、震災前～現在に至るまでを、震災前、発災～部分運行再開、部分運行再開～全線復旧方針決定、全線復旧方針決定～現在、の区分ごとに振り返る形で聞き取った。

(2) 南阿蘇鉄道沿線における復興まちづくり活動の変遷

ヒアリング調査で把握した活動を課題、目的、協働主体、資源、手法に分類して整理した。その一部を表-3 に示した。

(3) ありがたい未来像の変遷

ヒアリング調査で把握したありがたい未来像について整理した。その一部を表-4 に示した。

表-4 ありがたい未来像の変遷 (I氏)

年代	ありがたい未来
震災前	「交流を大切にしたいくらいかな、最初。未来の姿は。漠然と。自分の店を営業することで精いっぱいだったげんさ。」
発災 ↓ 部分運行再開	「自分のことで精一杯だったから考えられていない。」
部分運行再開 ↓ 全線復旧方針決定	「1日も早く復旧させたいっていう気持ちはあるし。中松駅の次は白水高原まで伸ばしていこうみたいな、そういった思いだった。」
全線復旧方針決定 ↓ 現在	「南阿蘇鉄道ってこんな素敵なお店がたくさんあって、こんなにいい駅だったんだな、鉄道だったんだなって思ってもらえるように、僕たちが土台を立て直すし、かつ、よりよい駅にしていかななくてはいけないっていう思いが増えてきたっていう感じ。」

4. おわりに

本研究では、南阿蘇鉄道沿線の復興まちづくりの活動実態を明らかにした。今後は、ビジョンに着目して活動実態を分析する予定である。

参考文献

- 1) 中山久憲：創造的復興、そして持続可能な地域への復興へ、現代社会研究第3号、2017
- 2) 羽鳥剛史, 片岡由香, 尾崎誠：市民活動の持続可能性に関する心理要因分析, 土木学会論文集 D3, Vol. 72, No. 5, I_407-I_414, 2016
- 3) 山村美保里：世代を超えて持続する市民活動の長期継続要因に関する研究-下諏訪湖浄水を事例として-, 土木学会論文集 D1, Vol. 75, No. 1, 1-11, 2019

表-3 活動の変遷 (I氏)

	震災前	発災一部分運行再開		部分運行再開→全線復旧方針決定			全線復旧方針決定→現在	
活動	日常的交流	マルシェに出店	南阿蘇鉄道復旧支援部会立ち上げ	南阿蘇鉄道関連のイベントへの出店	募金活動	南阿蘇鉄道沿線関係者による会議	南阿蘇鉄道沿線スタンプラリー	南阿蘇沿線フォトコンテスト
課題	なし	熊本地震による道路等の被害により、南阿蘇に足を運んでもらうことが難しい状況	南阿蘇鉄道や駅舎同士などにおいてつながりが足りていないため、情報共有ができていない	なし	南阿蘇鉄道の全線復旧を金銭面から支援する	南阿蘇鉄道沿線における主体同士のつながりが足りていない	単発イベントだと、継続的にお客さんが来ない	単発イベントだと、継続的にお客さんが来ない
目的	なし	都市部に向き、南阿蘇村の情報発信を行う	復旧状況や各駅舎の情報を共有する	なし	南阿蘇鉄道の全線復旧を金銭面から支援する	情報を共有し、今後必要などについて話し合う	継続的にお客さんが来る仕組みを作り、現状の情報発信をする	継続的にお客さんが来る仕組みを作り、現状の情報発信をする
協働主体	なし	南阿蘇鉄道、商工会、南阿蘇地域の店舗	駅舎管理人、南阿蘇鉄道、観光協会	役場、駅舎管理人	地域おこし協力隊、地域外ボランティア	駅舎管理人、南阿蘇鉄道、地域おこし協力隊、南阿蘇村役場	駅舎管理人、南阿蘇鉄道、地域おこし協力隊、南阿蘇村役場	駅舎管理人、南阿蘇鉄道、地域おこし協力隊、南阿蘇村役場
資源	なし	販売品	なし	販売品、駅舎、南阿蘇鉄道	販売品、駅舎	南阿蘇村役場庁舎	南阿蘇村の予算、駅舎施設	南阿蘇村の予算
手法	なし	商品を販売し、南阿蘇の現状を伝える	Facebookにてグループ作成し、情報共有を行う	部分運行されている駅舎に向き、商品を販売する	カレンダーやDVDなどの販売品を駅舎で売り、その売上の一部を南阿蘇鉄道に募金する	ディスカッション形式で話し合う	予算を使用して景品を用意し、各駅舎にスタンプを用意する	予算を使用して景品を用意し、関連主体で投稿写真の集計・審査をする